

第2回 新大橋景観検討委員会 議事要旨

日時及び場所

日時：平成29年2月16日（木）14時00分～16時00分

場所：島根県自治研修所 2階 講堂

出席者

飯野委員、大屋委員、小草委員、柴田委員、二井委員長、原田委員、藤居委員、本間委員、吉田委員、渡部委員

議事次第

1. 開会
2. あいさつ
3. 第1回委員会について（報告）【報告資料】
4. 議事
 - 1) 新大橋整備基本方針（素案）について【資料1】
 - 2) パブリックコメントの実施について【資料2】
5. 閉会

配付資料

委員会次第

座席配置図

委員会規約

委員名簿

報告資料

資料1 新大橋整備基本方針（素案）について

資料2 パブリックコメント実施計画案

議事概要

1. 第1回委員会について（報告）

- ・歴史的な風情を失っても良いという意味で初代新大橋が二代目新大橋に変わったと言い切ってしまうのが怖い気がする。初代の橋を見ると、ある程度は歴史的な風情を意識してつくられている部分がある。

2. 議事1) について

(1) テーマと文章について

1) 「新しいふるさとの原風景をつくる橋」について

- ・この先の松江大橋の架け替えを考えると、「原風景をつくる橋」よりも「原風景をつくる大橋」で良いのでは。また、「新しいふるさとの原風景をつくる大橋」ではなく、「ふるさとの原風景をつくる新しい大橋」だと新大橋をイメージしやすいのでは。歩いて渡れる大橋が4本もあるということとを大事にしてもらえたら嬉しい。

- ・「原風景」というのは元の風景。「新しい元の風景」では言葉が矛盾している気がする。

- ・「原風景」という言葉の定義自体は、幼い頃に見た自分の中に持つ風景ということ。ふるさとの風景として定着していくという意味では特に矛盾はしていないように思う。

- ・「新しいふるさとの原風景」ということテーマは、松江出身の方に対するものと感じる。松江出身者以外の方や観光客にも松江を気に入ってもらうために、「ふるさと」という言葉が良いのか、色々な方に見てもらって松江の風情を感じてもらえるような言葉が良いのか、少し議論した方が良い。

- ・以前、地元の皆さんからお話を聞くと、自分たちの心象風景に最も根付いているのは松江大橋であると言っていた。「ふるさとの原風景」という、より心情に訴えるような表現を使ったとき、市民にとってはむしろ松江大橋に当てはまる言葉であるのではと思った。今後、松江大橋の架け替えのコンセプトを考えるとどんなコンセプトを持ってこられるのか心配。

- ・十七代の松江大橋の設計者は、新大橋のデザインに欠けているものとして大橋の真ん中に踊り場を設けた。つまり、新大橋があまりにも無味乾燥な機能性重視の橋になってしまったので、それを意識して考えられている。そういったことを踏まえると、おそらく住民の皆さんは新大橋に対して「ふるさとの原風景」というこだわりは持っていないと思う。パブコメでの住民の皆さんの意見に影響する部分だと思う。

- ・次の新大橋は三代目。「三代目新大橋」と呼ぶ人もいる。四代目、五代目と続く歴史的タイムス

パンを考えて議論しても良いと思う。

- ・「新しい大橋」としてしまうと、「今ある新大橋とは別の橋を架ける」、あるいは「松江大橋を架け替える」というふうにとられてしまうかもしれない。

- ・「ふるさとの原風景」の取り扱いについては、パブリックコメントにおいて違和感があるという意見があれば見直すという方法もある。新大橋、松江大橋を含む大橋川自体が原風景になるという意味で言えば、松江大橋も新大橋も同じ方向を目指すということでも良いと思う。

2) 「霊峰・大山」について

- ・「霊峰」という表現はかなり特殊。「秀峰」の方が一般的ではないか。

- ・地元の方が「秀峰」というような感覚をお持ちであれば、「秀峰」の方が良い。

- ・「霊峰」というとやや宗教的なイメージがある。「秀峰」の方が良いと思う。

3) 「松江大橋と新大橋は、伝統と未来といういわば親子のような関係」について

- ・幼少時代はこの2つの橋しかなかった。このペアで松江の町が生きてきたと思っているので、「親子」という表現に違和感がある。

- ・「親子」という表現がひっかかったが、わかりやすいのかなとも思う。それだけ親しまれて、生活する上で重要な橋であったという意味合いであると感じた。

- ・松江大橋と新大橋の関係性は、「親子」ではない適当な言葉が必要。ペアという意味合いのような、両者の関係がよく分かる言葉が良いと思う。

- ・「親子」を「両輪」とするのはどうか。

4) 「現代的で佳麗な姿」について

- ・「佳麗」という言葉は、一般的ではなく、もう少し分かりやすい表現が良いのではと思った。

- ・「佳麗」という言葉については、「美しく、品が良い」という意味があるが、華やかな意味の「華麗」もあるので、松江の雰囲気合う良い言葉があれば変更しても良いと思う。

- ・「佳麗な姿」という表現については、この字が適当かどうか分からないが、新大橋はカレイである必要があると思う。

・「佳麗」という言葉については、もう少し一般的で分かりやすい言葉があれば検討してほしいが、ただ単に美しい橋ということだけではなく、品が良いという要素も含めて適当な言葉を考えてほしい。もし無ければ、「佳麗」の意味を注記しておくという方法でも良いと思う。

5) テーマと文章の全般

・「新しい新大橋の設計」とあるが、この表現は「新しい『新大橋』の設計」とした方が良いのではないか。

・これまで日本のほとんどの橋は、架け替えではなく別の場所に新設してきた。ここでどういう方向を目指すかが松江大橋にも影響すると思うと、新大橋の持つ意味は大きい。

・「親子」ではなく、「両輪」として考えるならば、一つの視点場として新大橋がある。新大橋から見る松江大橋の風景が非常に重要。それが市民、観光客一人ひとりのふるさと、あるいは新たな原風景となる。松江大橋と新大橋は一体という考え方が良いと思う。松江に再度訪れていただく、思い出していただくための原風景としてこのエリアをつくるのが大事である。

・新大橋自体が原風景になるだけでなく、そこから眺めた大橋川の風景も原風景になる。

(2) コンセプト、設計方針 ①全体方針、②橋梁本体のデザイン、③橋上空間のデザインについて

・①の「新大橋と松江大橋との関係性を際立たせるよう…モダンなデザインの橋とします」は賛成。新大橋が景観の主役の1つになると思っていたが、②で「水辺やまちの風景が主役になるように」とあり、橋の存在をなるべく消そう・無くそうとしている。その上、①に「オーソドックスな…」とあり、道路の延長線上の機能しかない橋をイメージしてしまう。新大橋が中心市街地活性化につながるような橋として存在し、積極的にその存在をアピールする必要があると思う。最初から「オーソドックスかつシンプルな形態」と決めつけるのはいかがなものか。

・②で「水辺やまちの風景が主役になる」とあるが、両岸に残さなければならない非常に美しいまち並みが形成されているとは見えない。その景色を主役にするのはどうか。むしろそういう景色を引き締める役割が新大橋にあるのではないか。引き締めることは主役になるということになる。後々、松江のシンボルになる可能性を秘めた形体として必要。

・景観検討委員会を開催していることから「オーソドックスかつシンプル」というのは、どこにでもある普通の橋という意味で書いていないと思うが、ここまで強調しなくてもいいかもしれない。

・この場所で何を主役に考えるか、委員会できちんと議論した方が良い。いわゆる普通の橋でいいとは思っていない。仮にシンプルでも、無味乾燥では困るので、賑わいや人の往来が増えることに

つながることが大事である。まず、大きな分かれ目としては、上に飛び出した構造で目立つ橋がよいのか、それとも桁橋で、にぎわいに寄与できる美しいデザインを追求していくかということだと思ふ。

・あの橋を渡ってあそこへ行こう、あそこで佇んで周りを眺めようという橋にするにはどうしたら良いか。桁橋でいいと思うが、松江の賑わい活性化につながるという視点から、教科書にあるようなどこにでもあるような橋ではなく、松江のここにしかないという橋を目指したい。そういう意味で、今は車道と歩道が一体となっているが、歩道を切り離して考えるとデザインの幅が広がる。安全面からも車道と歩道を切り離して考えるということもあるのではないかと。

・車道と歩道を完全に分離することができるかどうか分からないが、どこにでもある橋をかけようとしているという捉え方をされてしまうのは問題。例えば全体方針に「行ってみたいくなる」、「渡ってみたいくなる」などの言葉を加えるのはどうか。

・他の委員の意見に基づけば、コンセプトの「伸びやかな風景を引き立てる橋」は、「伸びやかな風景に引き立てられる橋」とするのが適当。ここでデザインの方向性を決めないのであれば、「のびやかな風景に調和した橋」というぐらいに変えた方が良いのではないかと。

・コンセプトの2つは、「佇みたいくなる居心地の良い橋詰空間」であって「渡りやすく回遊性を生みだす歩行空間」でないか。歩く場所と佇む場所の一般的な説明だと思ふ。

・「まちの回遊性を生みだす橋詰空間」は少しわかりにくいかもしれない。「せかせかと歩くだけでなく、手すりに寄りかかって川を眺めたりするような歩道にした方が良いのではないかと」といったような前回の意見を踏まえての表現だと思ふが、「歩行空間」を「歩道」にした方がいいのかもしれない。「回遊性を生みだす」について、「橋詰空間」で終わるのがいいのか、置き換えられる言葉があるか事務局の方でも検討してもらおう。「伸びやかな風景を引き立てる」でも「伸びやかな風景と調和」でもどちらでも良いと思ふが、小草委員の「周りの風景を引き締める」という言葉が非常にいいと思ふ。

・今の新大橋は、曲線を使いながら力の流れを考えた桁の高さを変化させていて理想的で美しい。長い目で見ると、奇抜な形よりも力の流れに対して無駄のない形のほうが洗練された美しさが出ると考えている。橋梁設計ではなるべく無駄のない形を検討するといいいのではないかと。

・この周辺は統一性がなく、もう少し町並みとしての部分も松江大橋と今回の新大橋の架け替えによって引き締めたり、みんながここに来たいという景観的なものを付加する必要があると感じる。

・水辺を新大橋から見たり、新大橋から水辺を見たときに原風景として何か感じてもらえるような水辺の形にするとよいのではないか。

・私も桁橋が良いと思っているが、桁橋の場合には、桁の形状をどうするかによって印象が大きく変わってくる。アイデア一発勝負ではなく非常に繊細にデザインを詰めていく作業が求められる。松江大橋から見るシルエットが重要となる。

・橋上空間では、渡る人間からすると実際に手で触る部分が何でできているか、歩く部分がどんな色でどんな雰囲気を持っているのかによって、無味乾燥なのかそれとも違う場所なのかというところもある。その辺をうまく使い分けながら形の美しさと橋上での過ごしやすさを両立できるようなやり方を目指したい。

・私にとっての新大橋は原風景であり、私にとって新大橋は花火を見る場所で、水郷際が見やすい。

・例えば大きなイベント時には、車の通行を止めて全体を歩道として使うなど、将来的な使い方をイメージして、細かい部分を決めていくことが大切かもしれない。

・松江は国際文化観光都市で、現在地は松江の顔の部分である。市民の意見として「今を変えてほしくない」という認識があると思っているので、橋梁形式は桁橋で進んでほしい。

・基本的には桁橋の中で検討を進めてほしいが、いわゆる教科書通りの普通の橋ではない提案を目指して欲しい。

・松江に来た観光客に「あの新大橋を見ずして帰るな」、「必ず新大橋に行ってみよ」と言えるような橋になればいいと思う。

・技術的な部分で、グラデーション塗装を施すことは可能か。例えば側面から見たときに、こげ茶から徐々に薄くなっていくような視覚混合ができると、遠くから見たときに穏やかに感じるのではないか。実際に橋にそういう塗装をしている事例があるのか、できるのか。

・基本的には塗料を色々混ぜていくのが難しい。実際は職人がスプレーで下から自分ができる範囲で徐々に塗っていくが、塗装範囲が広いものに徐々に塗料を混ぜながらというのは非常に難しい技術。一色にしても、影や濃さがあるので外から見ると色々な形に見える。桁や床板（コンクリートの部分）がある中で色が少し変わっているように見えることができるかもしれない。

・グラデーションに塗っているものは見たことがない。塗り分けているものが東京にあるが、あま

りいい印象ではない。橋の支える部分と路面の部分で幅が違う。日の当たり方によって時間帯で影の落ち方が違ってくる。建物の壁面に見るものとは違うような見え方になるかもしれない。橋側面の形状による表情の出方がある。

- ・この委員会で基本的な色の方向性まで決めたいと思うが、実際の工事の段階で 1m×1m の鉄板に本物の塗装をしたものをいくつか吊り下げて、それを見て現地で確認することができればいいと思う。

- ・デザインを色に頼るのは非常に危険である。なるべく自然素材の色を使い、色を塗るところを減らすことを考えながら設計することが必要。桁橋でも大きな鉄骨の桁に色を塗るのは絶対に避けた方がよい。色はどんどん褪せてくるから、頻繁に塗り直さなければならない。維持管理も大変でコストもかかる。全体方針のなかに「(見) 飽きない橋」とあり、色は飽きるのだからなるべく色は塗るべきではない。

- ・木ではないものに、いくら木の色を塗っても木にはならない。今回、桁の部分は多少塗らないといけないと思うが、色だけに頼らないということは大事。

(3) 設計方針 ④橋詰のデザインについて

- ・照明をどうするかも大事である。夜ここが素敵なお場所になるなど事務局で考えていただければと思う。

- ・これから橋を魅力的な形にしていくことも大事ではあるが、これから整備される大橋川沿いの水辺からどう橋にアプローチできるのか、まち側からどう橋に行くのか、あるいは橋の周りでどういうふうに住める場所を提供するのか、前回の委員会でも意見をいただいたが、橋詰のデザインも非常に重要な部分。

- ・「橋詰には座って橋を眺められるような溜まり空間をつくります」について、重要性はわかるが、設計はこれからであり、傾斜がつくなどいろいろな制約がある中で、ここまで具体的でなくてもよいのではないかと。橋詰というと、橋と現道との取付部分・隅切り部分をイメージした。そこで必ず座って見ることができるかどうか現時点では断言できない。もっと広い範囲を橋詰というのなら何の異論もない。

- ・南側は港湾緑地だから、橋そのものになくとも港湾緑地の方で十分いい空間をつくる発想もあると思う。

- ・「橋詰」がどこかをわかるようにした方が市民も意見を言いやすい。

・南岸は、必ずしも歩行者が往来するすぐ横というよりは、スムーズに行ける水辺の空間にくだり込んだところにゆったりとした場所がある方が望ましい。

・橋の側面や下あたりから見ると、橋のボリュームや軽快な形状を見ることができる。橋詰というよりは、周辺を含めて座って橋を眺められる方が良いと思う。

・人によって「橋詰」の位置の捉え方が違うということが分かった。「座って眺められる溜まり空間をつくり出す」を全体方針で取り上げる考え方もある。橋詰空間をつくることは目指すことであると思うが、橋の取付く部分は勾配がきつくなるので、実際に座って橋や川を眺めるにあたっては、どこが心地よさそうなのかうまく選びながら溜まれる場所を探していただきたい。橋と道路がぶつかる場所に限定せず考えたほうがよい。

・下をくぐれて水辺が分断されないようにずっと下を歩けるようにすると橋を下からも眺められる、そして橋の歩道空間からすぐその下の水辺へ下りられるよう一体的に考えると、橋詰空間として整理できるのでは。

・水辺と橋詰を一体的に考えるということは大事。南岸に関しては計画があるので河川管理者と調整をしていただければと思う。

・橋詰と水辺がうまくリンクするよう調整させていただく。

・橋詰広場と言いつつベンチだけが置いてあるのが意外と多いが、ベンチがあればのんびり休めるのかということそうでもない。のんびり休む時はお茶を飲むとか、そういうものがセットになっているべき。居てもらう時間が5分なのか、1時間友達と居られる場所なのかでずいぶん違う。広島元安川のカフェや松江の堀川沿いなど、川との距離を近づけるような試みがあるので、実現できるかは別として背後地も含めてその可能性を探っていただきたい。

(4) 設計方針 ⑤市民参加のデザインについて

・この委員会での結論に納得してもらおうプロセスをどう出して行くのかきちんと考えておかないといけない。「計画段階から市民に参加してもらい」とあるが、いきなり「桁橋で行きます」と出すと「それは計画段階ではない、決定事項だ」となってしまう。そうすると、松江大橋のときなど、今後いろいろ問題を生み出す。時間はかかるかもしれないが、丁寧にやっていくことが、大橋川の問題に関わる国や県や市が信頼を得るすごくいいチャンスだと思う。

・今は橋梁イメージがない状態であるため、段階的に出す方向もある。パブリックコメントを含め、考えていただく。

- ・市民参加でぜひやりたいと思っていることが、最近、土木の分野で行われている材料寄付型の整備。例えば、市民の皆さんにタイルを一枚千円、二千円で買っていただき、名前を入れさせてもらって、橋の上の部分のどこかに使うなど。完成前から知ってもらい愛着を持ってもらえる方向も考えてもいいと思う。

3. 議事2) について

- ・議事1) の議論から、テーマも意見を伺うべき。

- ・基本方針に共感できるかできないか、その理由はなかなか答えづらいのではないかと。理由も選択制とし、最後に全体として意見をいただく方が参加いただけるのではないかと。「共感できるできない理由を書いてください」ということに重きを置かれているので、その中でどういうものをアンケートから求めるのか考えた方がよい。

- ・共感できない理由を選択肢としてつくるのは難しいと思うので、問2と問4は、「もしあれば」といった任意の設問に変えてもよいのでは。

- ・市民、特に経済界の方々が一番心配していることは工事に関するもの。仮橋を架けて10年も工事をしていたら、松江の中心街が寂れてしまうのではという懸念がある。今回のパブリックコメントは基本的な考え方のみについてやるのか、工事に関することも含めてやるのか。これが事業の成功にかかっている。

- ・それなりに施工期間はかかると思うが、委員会の中で「これであれば待つていただく価値があるだろう」という段階まで進んでから示さないと、言葉だけの現段階で施工期間だけを示すと「とんでもない」という意見が出ると思う。

委員会として「待つだけの価値がある」と市民のみなさんに思ってもらえるものを目指していく。

- ・橋単体のみではなく水辺とセットになって初めて解決することでもあるので、関係機関と協議しながら橋と合わせて橋の周りに魅力的な空間が生まれるような検討をしていただきたい。

4. 総括

- ・テーマは素案のままとし、パブリックコメントの結果により修正を検討する。

- ・テーマの文章中の「霊峰」は「秀峰」に変更し、「親子」は「両輪」など、ともに役割を担ってきたという言葉に変更する。また、「佳麗」に関しては一般的な言葉を探し、もし適切な言葉がなければ注釈をつける。

- ・設計方針①の「オーソドックス」は外す。

- ・設計方針に「橋に行ってみたくなる」というようなことを追加する。
- ・「座って橋を眺められるような溜まり空間を設ける」ことを設計方針④ではなく、設計方針①の中に盛り込むことを検討する。
- ・委員会として、基本的な橋梁形式は桁橋とする。
- ・パブリックコメントにテーマの設問を加える。また、案の問2、問4は任意の設問であることを明示する。
- ・上記のほか、新大橋整備基本方針、パブリックコメント（アンケート、資料）の検討・修正は本日の意見を踏まえて事務局が行い、委員長が確認したうえでパブリックコメントを実施する。

以上